

武庫川流域委員会 委員長 松本 誠 様 2006.7.10.

委員 法西 浩

委員会では、いろいろとお世話になりありがとうございます。生物種と環境の保全に関連した意見書を提出します。ご検討をお願いします。

意 見 書

改訂・兵庫の貴重な自然

一兵庫県版レッドデータブック2003一 の背景

- ・1996年に国際自然保護連合（IUCN）が、哺乳類と鳥類について世界的な規模で絶滅のおそれのある種をリストアップした報告書を公表した。
- ・1989年わが国においても、（財）日本自然保護協会他が「わが国における保護上重要な植物種の現状」を公表した。
- ・1991年に、環境庁（現環境省）は「日本の絶滅のおそれのある野生生物」
として、脊椎動物編および無脊椎動物編を公表した。
- ・兵庫県では、1995年に他県にさきがけ、地域版レッドデータブック「兵庫の貴重な自然一兵庫県版レッドデータブック一」を公表した。選定評価の対象として、植物群落、地形、地質、自然景観をあげている。
- ・環境省は、その後新カテゴリーを準用し、植物版レッドデータブック及び動物版レッドデータブックの改訂作業を進め、現在「爬虫類・両生類」、「植物Ⅰ（維管束植物）」、「植物Ⅱ（維管束植物以外）」、「哺乳類」、「鳥類」が発行されている。
- ・本県では、さらにその後の新しい情報の蓄積や、前回作成時にあまり得られなかった生物分野の情報収集が進んだ。これらの情報に基づく選定・評価の見直しが必要となり、今回の改訂2003が作成された。

兵庫県版レッドデータブック2003 の意義

絶滅のおそれのある野生生物の種の保全は、地球レベルで取り組むべき重要課題である。多様な野生生物が絶滅することなく生息・生育し続けることは、人類の生存基盤である自然生態系を健全に保持するために必要である。

本県では、先に述べたように、他県に先がけ1995年に兵庫県版レッドデータブック（以下RD）を公表した。さらにまた、他県に先がけて、県版RD2003を発行した。今回のRDでは、クモ類、干潟の生物、コケ類が新たに加え、前回より368種増の1375種がリストアップされ、さらに、植物群落、自然景観など重要な環境は、前回よりも209箇所増の868箇所となった。植物群落と自然景観の2つは特に強調されている。

では、なぜか？ 今絶滅危惧種を1種残すという保全から、その生態系を保全するという主流が生まれてきたからである。すぐれた自然環境、自然景観の中には、生物多様性を育むゆるぎないすぐれた生態系が成り立っている。その生態系は、例えば植物群落がある。その環境の中に特異な動物相が、その

環境の中で成り立っている。その植物群落は、自然景観の中に存在している。

私たち環境WGでは、その会議の中で、上に述べたことを踏まえて、「優れた自然環境が残された地域」という項目で、表にまとめている。もちろん、その中に武庫川峡谷がある、のは言うまでもない。優れた自然環境が残された地域を保全する意義はたいへん大きい。

武庫川峡谷の保全の意義

武庫川峡谷はRD Bランクである。植物群落と自然景観のランクの評価は、Aランクは全国レベル、Bランクは都道府県レベルでの評価である。つまり、兵庫県は、武庫川峡谷は県の重要な文化財、景観美、自然公園、リクリエーションの場、生物多様性と希少種の宝庫として残しておきたい、と言っているわけである。武庫川峡谷には手を加えない、という保全に賛同しよう。その理由は、今まで述べてきたことで十分にお判りだろう。

ダムは要らない、という評価

酒井委員は、第45回流域委員会の意見書の中で、1995年から、武庫川峡谷にダムは要らない、という反対運動を進めて来られた沿革を述べておられる。その流れに私が加わったのは、1997年からである。

また、私が選境問題に取り組み始めたのは、ある勉強会でもらった資料の中にあった、USBR（合衆国開墾局）の総裁、Daniel P. Beard氏が、1994年5月18日にブルガリアで開催された国際灌漑・排水委員会で、講演した有名な論文を読んだときからである。それを別紙にしてお届けしている。コンパクトで、格調高く書かれている。一読をお願いします。

ダム建設によって、環境破壊がもたらされる。治水は、河道だけでなく、流域全体で総合治水によって始めなければならない、という国際的な流れになってきた。この潮流からとり残されないようにしたい。

アメリカ合衆国の ダム建設政策に関する重要な講演

—以下に掲載するのは、U. S. Bureau of Reclamation（合衆国開墾局）の総裁、Daniel P. Beard氏が、1994年5月18日にブルガリアで開催されたInternational Commission on Irrigation and Drainage（国際灌漑・排水委員会）の年総会において行った講演を編集したものである。長い間、世界で最も有名な大型ダムの建設者であった機関の長であるBeard氏は、その講演の中で「アメリカにおけるダム建設の時代は終わった」と述べ、開墾局の最大の灌漑計画は経済的でなかったことを認めた。—

講演内容

私が統括している合衆国開墾局（USBR）は1902年に公共建設機関として創設された。私達の本来の任務は、乾燥した合衆国西部の移民と経済発展を進めるために、水資源を開発することでした。USBRはそのために重要な役割を果たした数多くの事業を築き上げました。フーバーダム、グレンキャニオンダム、シャスタダム、グランドクーリーダム、その他の事業は私達の努力の結果なのです。私達の計画による重要な社会基盤開発によってUSBRは合衆国最大の水の卸供給源となりました。私達は国内で6番目に大きな電力供給源であり、西部の地表水の45%を管理しています。

変化の理由

合衆国西部の水資源政策は、もともと農業と鉱業の需要にあわせて発想、実行されました。それは十分な水の供給があり、政府の財源が豊富であり、環境保護団体や地域住民が政治的、法的手段による影響力をわずかしかなかった時には可能なやり方でした。それが今ではすっかり変わってしまいました。アメリカ西部は現在、我国で最も都市化された地域であり、最も急速な発展を遂げてきました。特に人口の増加と新しい水需要の増加のために、水の供給はもはや十分ではありません。政府の財源ももはや十分とはいえません。あらゆるレベルでの政府予算の削減のため、大規模な建設事業の請け負いに使える金は少くなりました。地域住民や環境保護団体は今では政治的、法的手段による批判の声をあげるようになりました。

水をめぐっては、水を消費しない形での利用（訳注—漁業、レジャー、生態系保護などの意）と消費的な使用との競合があります。政府による環境に関する要求は増加し続け、政策論争に影響してきました。絶滅の危機に瀕した生物種を保護すること、家庭排水による汚染問題を解決することや、湿地保全法の実施は私達のそれまでの水問題解決のアプローチを変えてしまいました。そして最後に、少数の農家や土地所有者といった、私達の事業の土台であったもの

に対して補助金を出すことについての社会の支持が弱まってしまいました。

変化をおこした力

これらの変化をもたらした主要な力が5つあると私は考えています。

① 経済的現実性—私達の計画は、事業の受益者が費用を償還することを基本的な前提としていました。私達は今、大規模な水資源開発事業の莫大な建設費用とその運用費用は償還しきれないということに気付きました。私達の経験によれば、これらの事業の全費用の内、ごく一部しか償還されていません。というのは灌漑費用には利子がつからないからです。このようにUSBRの計画は、事業の受益者のための多額な補助金を納税者の負担でまかなってきました。それに加えて、これらの事業の国の経済に対する実際の貢献度は、この公共財源で出来たはずの他の使い方に比べて小さいのです。また、これらの事業の予測に対する疑問があります。私達の経験によれば、事業の完成に要した実際の費用の合計は、もともとの見積もり費用を最低でも50%上回っており、そして多くの場合、事業による利益は実現しませんでした。結果的には私達の政治的指導力についての信頼は、事業の最終的な費用と利益の正確な見積もりに失敗したことにより、地に落ちてしまったのです。

② 社会的現実性—長年にわたってUSBRは主に一部の農業関係者のために働き、増大する都市人口の要求に答えませんでした。その結果、私達の計画に対する支持基盤を失ったのです。それに加えて私達の施設建設に反対する人々が私達を鋭く批判するようになり、その批判に私達は耳を傾けませんでした。結局はこの反対する人々が費用を負担することになり、私達に対する社会の支持は低下したのでした。

③ 運営の現実—アメリカ西部には本流を貯水施設として灌漑を行うことに主眼を置いた、かなり大型で比較的古い水資源開発構造物が幾つかあります。この25年間で、私達は大規模な水資源開発の二次的コストの重大性を学びました。土壌の塩化、漁業の衰退と消滅、湿地と生物生息地の消滅、土着文化の破壊、農業による汚染、貯水施設の堆砂、ダム安全性の問題、これらすべて私達の開発行為の副産物です。私達はこれらの問題をなかなか認識できず、今もその重大さといかに是正したらよいかを学びつつあるところです。

④ 環境コスト—今日、アメリカの世論は、4~50年前には無視されていた川や流域の、長期的に見たエコロジカルな、あるいは文化的な側面により高い価値を置いています。過去において私達は環境に影響を与えると知りつつ、仕事や電力生産、水源開発の結果としての農業生産の増加をそれと引き換えにしてきました。これが正しい決定であったか否かは重要ではありません。重要なのは今日、アメリカの世論が、川のエコロジカルなあるいは文化的価値の方により重きを置いて

いるということなのです。政府の一機関として、私達は目の前にある社会の価値観と意見に沿って働かなければなりません。

⑤ 新しい選択—この20年間に私達は、アメリカの水資源問題をダム建設によらずに解決する多くの代替手段があることに気付くようになりました。建築構造物によらない代替手段はたいいてい、実施のためのコストが安上りで、環境コストも小さくなります。たとえば、エネルギーと水の両方について、より洗練された資源管理の取り組みがなされるのを見てきました。私達は今、次のことを認識しています。

- ・水の需要管理と資源保全による利益
- ・水の割り当て量を決定する上で役立つ、水の価値付の有効性
- ・それぞれの代替案の、真の長期的コストと利益を理解するために役立つ、環境計画を完全にまとめるための多目的水資源管理の重要性
- ・高くつく失敗を避け、新しいアイデアを促進する、開かれた包括的な意志決定の価値

これらの力はどのような結果をもたらしたのでしょうか。

その結果、アメリカにおいてダム建設の時代は、今終わるのです。私達はもはや建設事業に対する社会的、政治的支援を期待できません。現在進行中の事業はできるだけ早く終らせますが、将来の事業の機会は、全くとまでは言えないまでもほとんどあり得ないでしょう。実のところ、国内のいかなる水問題も、たいいてい解決する実現可能な選択として、建築構造物による解決法を消し去る方向に振子は振られていると思います。

新しい現実へのアプローチ

私達、USBRの人間はこの波乱の時代にどのように取り組んできたのでしょうか。この数か月、自分達の過去と将来について慎重に再検討し、幾つかの重要な結論に行き着きました。

第1に、私達は将来について現実的に考えました。私達は自分達の予算と人員が削減され、増えることはないとみています。私達の選択は単純です。私達はこの削減を自ら行ってもよいし、誰かに任せることもできます。私達は自分自身でやることにしました。

第2に、私達は今までの問題解決方法、つまりダムや関係設備の建設が、もはや社会的に受け入れられないと認識しました。私達はダム建設業務をやめなければなりません。私達の将来の役割は、建設事業ではなく、水資源管理の改善と環境回復活動にあります。

それは、私達が技術組織であることをやめるという意味ではありません。私達は現在の施設を維持管理していかなければなりません。時々小さな施設を補足的に建設する必要もあるでしょう。しかし大型ダムや関連する工事は、もはや私達

の存在理由ではあり得ないでしょう。改善された水資源管理になれば....

私達が焦点を合わせなければならない問題の主題はどれも共通しています。それは川に十分な水が無い^いこと^んです。単純な事のように見えますが、そうではないのです。ほとんどの西部の河川は過大に取水割り当てがなされ、ストレスがかかっています。水の使い過ぎは黙認され、奨励すらされてきました。そして適切な流水内使用は無視されるか禁じられてきました。この問題を解決するためには新しい貯水施設を造ってはなりません。そのかわりに、ある用途に使用した水を他の用途に再利用することを奨励すべきです。水資源の保全、需要管理、効率の改善、水の再利用は、この問題を解決する最良の機会であると信じています。

国際的活動

最後に USBR の国際的な活動についてお知らせしたいと思います。私がこの会議に出席いたしましたのは、偶然ではありません。私達は国際灌漑・排水委員会 (ICID) が設立されて以来、積極的に参加してまいりました。前総裁は ICID の幹部として勤務してきましたし、私の部下の何人かは現在ワーキンググループにおり、あるいはそれを統括しています。USBR はこれからも ICID のメンバーとして積極的に参加を続けます。ICID は私達に、世界の水資源問題解決の新しい方法について話し合い、討論し、考える機会を与えて下さいました。私達がお互いに学ぶことは多く、私達はこの伝統を維持していきたいと思っています。

私達の活動を開始するにあたって、私は ICID に対し、水問題の解決のための建築構造によらない代替手段の考慮を奨励することと、事業の実施が引き起こす環境への影響を軽減する努力を続けられることを心よりお願いいたします。それに加え、もうひとつぜひ提案したいことがあります。水資源保護の重要性が増大したことから、私は技術活動常任委員会に水資源保護、需要管理、効率改善のワーキンググループか、独立した委員会を作ることを考慮するよう要求したいと思います。どのようにこの重要な分野の問題に焦点をあてるか、私達は他の国々から学ばねばならないことがたくさんあると、合衆国を代表して申し上げます。

(翻訳 片岡 夏実)

この論文は、ある勉強会でいただいた資料
です。これを何度も読み、字が見えにくくな
ってしまい、ワープロを打って、再び文章を
作り直しました。今、私は武庫川流域委員会
委員の一人として、活躍中です。この論文が
私の活動の原点、原動力になっていきます。
(2006.7.1. 法西 浩 記)